

令和5年度 第69回指導者会議 会議報告

・開催日

令和6年3月2日

・開催方法

対面およびオンライン会議

・会議テーマ

学生陸上競技者および陸上競技会の国際化

・会議プログラム

1. FISU ワールドユニバーシティゲームズ(WUG)「2021/成都」の報告および

ディスカッション・質疑

2. ワールドランキングコンペティションへの申請上の留意点および

ディスカッション・質疑

・演者

プログラム1 山下誠氏(本連合 強化委員長・常務理事、WUG 陸上競技チームリーダー)
安井年文氏(本連合 強化委員長補佐・理事、WUG 陸上競技監督)

プログラム2 関根春幸氏(本連合 競技委員長・常務理事、日本陸上競技連盟 競技運営副委員長)

・司会

船原勝英氏(本連合 指導者会議運営委員・倫理委員会委員長)

本稿では会議の概要について報告する。

プログラム1

・大会結果について

山下) 11個のメダルを獲得し、投擲種目が全種目入賞というこれまでにない快挙であった。ロード競技でも過去の大会から継続してメダルを獲得することができた。メダル獲得数は前回大会の19個には届かなかったものの、内容としては躍進の見られた大会だった。

ワールドランキング制度が始まり、WUGも各国の国内選手権と同等レベルであるWRkカテゴリーBに設定されており、かなりポイントが高い位置づけとなったことで、これまでより有力な選手が増え、大会の質が変わってきていると感じた。

安井) 今回の選考では、メダル、入賞のラインを引いて選考を行った。その結果、41選手中36選手が入賞(リレー含む)という成績を残すことができた。これは、今回の選考の成果であるのではないかと考えている。

・環境について

安井) スタッフは計15名の派遣であった。これは、選手の人数を考えると少ないというのが実情である。しかし、そんな中でもスタッフの献身的な働きがあり、それが成果に現れて

いるのではないかと考えている。現地の設備は整っており、快適に過ごすことができた。選手村となっていた成都大学には2つのトラックが整備されており、選手村の中で調整を済ませることができた。

・今後の強化について

安井) WUGを今後の強化に結びつけられるようにしていきたい。特に、U23を超えた後の強化について、日本陸連と日本学連が組織としての繋がりを作れたら良いのではないかと感じている。また、各大学の壁を乗り越えて、他大学の選手と切磋琢磨しながら強化を目指すような交流ができるようになると、学生陸上競技界としての強化も図ることができるのではないかと。指導者は卒業後の活躍を念頭において指導していくことはもちろんのことであるが、大学生のうちから五輪や世界陸上などで活躍できる選手が多く出てくると、学生陸上競技界にとっても刺激になるのではないだろうか。

・ディスカッション、質疑応答

質問：他大学の選手を預かることについて意識していることはあるか。

山下) 帯同人数が限られているため、各選手自身ができることできないことについて、事前に指導者の方とコミュニケーションを図るとともに、帯同するスタッフにもその情報を共有するようにしている。

安井) 選考後にケガをしてしまう選手もいる。その場合、選手の再選考ということも考えなければならぬが、選ばれた選手に経過を聞くと良いことしか言わないことがあるため、指導者にも状況を聞き、大丈夫だという確約をとりながら進めている。

質問：今回は学生幹事がスタッフの1人として帯同したが、どのような役割を求めたか。

安井) 人数の少ない貴重な帯同スタッフの1人であるため、我々の求める指示に対して指示通りに動いていただいた。その中で、今回の帯同スタッフの中で数少ない女性スタッフであったことや、選手と同年代で選手に近いスタッフであるため、大人のスタッフには話しづらいことを話せる貴重な存在であったため、重要な役割を果たしてくれたと感じている。

プログラム2

・ワールドランキング (WA ランキング) について

関根) まず、パリ五輪を例とする。パリ五輪の参加標準記録はとても高いレベルの記録が設定されており、現在のところ標準記録突破者数はターゲットナンバーに達していない状況である。そこで使われているのが WA ランキングというものであり、標準記録突破者数がターゲットナンバーに満たない場合、このランキングポイント制度の上位者から参加資格を得られるようになっている。

ポイントは定められた順位スコア (Placing Score) と結果スコア (Result Score) の合計であるパフォーマンススコア (Performance Score) によって付けられ、パフォーマンスス

コア上位5つの平均値（長距離は3つ、マラソンは2つ）が選手のポイントとなる。順位スコアは大会のカテゴリーによって獲得できる順位やポイントが異なり、カテゴリーは大会のグレードによって主にA～Fに分けられている（五輪や世界陸上、ダイヤモンドリーグなどはさらに上位のカテゴリーに分けられる）。結果スコアは、結果（記録）に対してポイントが与えられる。記録有効期間は基本的に1年間となっており、スコアは各種目によって定められた基準に沿って算出される。また、風力等の条件によって、ポイントが基準スコアからプラスやマイナスになったり、世界記録でボーナスの加算がされたりするようになっている。また、最上位カテゴリーに位置する五輪や世界陸上などでは、準決勝の段階からランキングポイントが算出され、準決勝の順位や結果からポイントが入るようになっている。

・申請上の注意

関根) まず注意する点が、開催回数を年度ごとにリセットしているのか否かである。年度ごとにリセットせず開催回数を増やしている場合は大会の識別に問題はないが、リセットする場合は前年度との識別のために開催年を入れる必要がある。

開催申請は60日前に日本陸連での最終審査まで終わっていただけない。また、申請料は1大会4000円である。

WRkはWAルールで行わなければならないが、WAルールで行われなければ国としてペナルティの対象となる。ペナルティの例としては、国内選手権以外はWRkとして認めない、WRkでは国外からWAレフェリーシルバー以上を呼ばなければならないなどがある。

WAルールで特に注意しなければならないのが投擲種目である。必ず1本ずつ測定し、投擲物は日本陸連の認証だけでなく、WAに認証されたものでなければならない。

2025年度から、WRkの開催にはWAレフェリーブロンズ以上が審判長や主任に必要な予定である。それを見据えて、今後500人規模でのWAレフェリーブロンズの認定試験を行う予定である。WAは記録の信ぴょう性に対して神経質になっているため、適切に審判員を配置して正しいルールで運営する必要がある。

記録の申請は24時間以内に行わなければならない。記録はすべて英語表記であり、アルファベットでは同姓同名が出てくるため、生年月日の情報が個人の識別のために大切である。24時間以内という期限があるが、焦って誤ったデータを提出しないように、正しいデータを提出することを一番に心がけてほしい。

・ディスカッション、質疑応答

質問：2025年からWAレフェリーブロンズ以上が必要とのことだが、その情報はいつ頃正式に通達されるのか。

関根) 来年度の競技会申請開始までに日本陸連から学連を通じてお伝えする。

質問：WAレフェリーブロンズの認定試験の対象者はどのように決まるのか。

関根) 各都道府県陸協からの推薦者が対象となる。

質問: 学連からの推薦者はないという認識で間違いないか。

関根) その認識で間違いない。